



献上奉告祭を終え、出発する一行



した出光興産株式会社、全日本空輸株式会社をはじめ、関係各位には紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

客室乗務員への手渡し式が行われ、若布は機内へ運ばれた。また、この便に搭乗する方々には、当社より記念品として干支の縁起物が手渡された。

帳後、宮中三殿参拜の栄に俗し宮中での献上の儀を滞りなくおえた。宮中を辞した一行は赤坂御用地にて皇太子同妃両殿下、三笠宮殿下へ献上申し上げ、ここに宗像大社並びに宗像大社海洋神事奉賛会春の重儀「若布献上の儀」を無事に終えることができた。尚、本年も若布献上に際し、格別の御支援を賜りました出光興産株式



本殿で参拝する稚児等

去る四月三日、鎮国寺花まつりが行われた。鎮国寺は、大同元年(八〇六)大陸より帰朝された弘法大師空海が、北海道中の御加護に感謝の意を捧げるべく、先ず当大社を参拝された。その折、屏風山中の御加護に感謝の意を捧げるべく、先ず当大社を参拝された。その折、屏風山

「花まつり」は、桜・ツツジ、しゃくなげ等の花々が見ごろを迎える、三月末日、四月二十八日までの一ヶ月間、宗像観光協会主催により開催され、期間中の四月八日は、お釈迦様の生誕を祝う法会の「仏生会」にあたり、毎年この日に近い日曜日に稚児行列が行われている。当日は晴天に恵まれ、稚児装束を装った



鎮国寺に向う稚児行列

# 鎮国寺「花まつり」宗像大社から鎮国寺へ稚児行列

に瑞雲棚引く風姿を觀られ、この地に一字の寺を建立「屏風山・鎮国寺」と号され、又当大社の神宮寺として栄えた名刹古寺である。近年は一年を通じ四季折々の花を楽しめる名所としても知られる。この「花まつり」は、桜・ツツジ、しゃくなげ等の花々が見ごろを迎える、三月末日、四月二十八日までの一ヶ月間、宗像観光協会主催により開催され、期間中の四月八日は、お釈迦様の生誕を祝う法会の「仏生会」にあたり、毎年この日に近い日曜日に稚児行列が行われている。当日は晴天に恵まれ、稚児装束を装った子供達約一五〇名は午前十時、宗像大社本殿にてお祓いを受けた後、大社から鎮国寺まで稚児行列を行った。同寺では住職による法要や甘茶が振舞われ、子供達の健やかな成長を祈念した。

# 第54回 若布献上 玄海灘の天然若布を皇室に献上

四月十三日、早春の玄界灘の天然初物若布を賢所、天皇后兩陛下、皇太子同妃兩殿下、三笠宮殿下へ、葦津宮司、廣渡均氏(宗像漁業協同組合福岡支所)、永島

孝人氏(宗像漁業協同組合津屋崎支所)、随行神職の四名が宮中へ参内し、恙無く献上し上げた。この皇室への若布献上は、昭和三十八年の「宗像大社

海洋神事奉賛会」設立に際し、宗像大神の御神徳が、国家・皇室の守護であることから、皇室の御安泰と聖寿

の長久万歳を祈念して始められ、本年度五十四回目を迎えた。秋の「みあれ祭」と並び、同会の一大行事である。例年三月一日より地島沖にて若布の採取が開始されるが今年



本年の献上者、随行者 (奥4名)

差の影響により、生育が遅れ三月十日より採取を行った。状況が悪く地島漁協の方々も大変苦労されたが、歴史ある献上若布を何とか宮中へお届けしようと御尽力され、濃緑で磯の香りの強い良質な若布が採取された。伝統的な技法で奉製された板状の乾燥若布が、三月二十三日に当社に納められ、神職・巫女が形を整え

ながら規定の量を袋に納め、献上の準備が進められた。献上前日の十二日午前九時五十分、本殿にて若布献上奉告祭を斎行し、杉箱に納められた若布を持ち出社した。福岡空港では献上者をはじめ、例年若布を運んでいただく全日本空輸株式会社の皆様も参列し、当社巫女より全日空

に瑞雲棚引く風姿を觀られ、この地に一字の寺を建立「屏風山・鎮国寺」と号され、又当大社の神宮寺として栄えた名刹古寺である。近年は一年を通じ四季折々の花を楽しめる名所としても知られる。この「花まつり」は、桜・ツツジ、しゃくなげ等の花々が見ごろを迎える、三月末日、四月二十八日までの一ヶ月間、宗像観光協会主催により開催され、期間中の四月八日は、お釈迦様の生誕を祝う法会の「仏生会」にあたり、毎年この日に近い日曜日に稚児行列が行われている。当日は晴天に恵まれ、稚児装束を装った



福岡空港での出発式 客室乗務員に手渡される若布



若布と同様に搭乗される方々へ、記念品を贈呈

に瑞雲棚引く風姿を觀られ、この地に一字の寺を建立「屏風山・鎮国寺」と号され、又当大社の神宮寺として栄えた名刹古寺である。近年は一年を通じ四季折々の花を楽しめる名所としても知られる。この「花まつり」は、桜・ツツジ、しゃくなげ等の花々が見ごろを迎える、三月末日、四月二十八日までの一ヶ月間、宗像観光協会主催により開催され、期間中の四月八日は、お釈迦様の生誕を祝う法会の「仏生会」にあたり、毎年この日に近い日曜日に稚児行列が行われている。当日は晴天に恵まれ、稚児装束を装った

に瑞雲棚引く風姿を觀られ、この地に一字の寺を建立「屏風山・鎮国寺」と号され、又当大社の神宮寺として栄えた名刹古寺である。近年は一年を通じ四季折々の花を楽しめる名所としても知られる。この「花まつり」は、桜・ツツジ、しゃくなげ等の花々が見ごろを迎える、三月末日、四月二十八日までの一ヶ月間、宗像観光協会主催により開催され、期間中の四月八日は、お釈迦様の生誕を祝う法会の「仏生会」にあたり、毎年この日に近い日曜日に稚児行列が行われている。当日は晴天に恵まれ、稚児装束を装った

# 余の滴

年間十六日ある我が国の祝祭日、その多くが春の大型連休に集中します。なかでも五月五日は「端午の節句」。端は「じめ」、五月は十二支で午の月、つまり「午の月のはじめの午の日」の意で、のちに「午を五」とし五月五日となりました。奈良時代、宮中の行事としてこの日に蓬や菖蒲などで厄払いが行われ、武士の時代に「菖蒲」と「尚武」をかけて武を尊ぶ節目として祝うようになりました。現在、鎧や兜を飾るのはそのためです。江戸時代には身分を越えて男子の成長や立身出世を祝う行事として一般にも広がり、「鯉のぼり」もその生命力の強さにあやかり町人文化のなかで生まれました。出生率の低さが先進国のなかで最も高い水準の日本。地方でも核家族が進み、三世代が一つの家で暮らす大家族を目にしなくなり、社会構造を含め様々な要因があるのですが、大型連休最終日はご家族ご一族で、子供たち孫たちの成長を祈りましょう。どんな方にも人生の上で記念すべき大切な日があるように、国・社会にも永く銘記すべき日があります。「国民の祝日」それぞれが持つ意味をあらためて考えながら国旗を掲げることが、少子高齢化対策の第一歩に繋がるのかもしれない。(幹)